



# 能登やさしいこめづくり情報

令和元年6月  
能登米振興協議会  
能登米生産者協議会  
能登南部営農推進協議会  
J A 能登わかば

## 早生穂肥編

### 穂肥を適切な時期に施用して収量を確保！！

#### 1 生育概況と当面の管理

- ・分けつ期に当たる6月上旬の平均気温が平年より高く推移したため(七尾市で19.7℃(平年+0.5℃))、分けつが急激に増加し、平年よりも茎数が増加しています。
- ・葉数の展開から推測される生育の遅速は、早生品種、コシヒカリともに平年より3日早い状況となっています。
- ・早生品種では6月30日頃まで、コシヒカリでは7月10日頃まで、引き続き、中干しを継続し、稲体の健全化を図るとともに、今後は①「適切な穂肥の施用」、②「出穂まで1か月間の飽水管理」、③「出穂後の2回防除の徹底」に努めて下さい。

【参考 生育調査結果(6月24日現在)】

品 種	草 丈 (cm)			㎡当たり茎数(本/㎡)			株当たり茎数(本/株)			葉 齢 (枚)		
	本年	前年%	平年%	本年	前年%	平年%	本年	前年%	平年%	本年	前年%	平年%
コシヒカリ	49.6	118	108	587	121	114	33.3	125	128	10.2	105	104
ゆめみづほ	46.0	121	108	565	109	106	32.2	121	111	10.7	105	103
ハナエチゼン	43.5	110	101	478	101	95	26.8	94	106	10.7	111	105
ひやくまん穀	41.9	110	119	525	133	163	29.3	134	170	9.8	108	114

#### 2 出穂予測と穂肥時期の目安【ポイント① 適切な穂肥の施用】

- ・ゆめみづほの出穂期は7月21日頃、ハナエチゼンの出穂期は7月19日頃で、平年よりも2～3日早い予想となっています(6月24日時点)。
- ・分施肥系では、生育過剰なほ場や葉色が濃いほ場では、1回目の追肥時期は遅らせず、量を減らして施用して下さい。
- ・1回目の追肥が出来なかった場合でも、稲体の消耗を防ぐために2回目の追肥は必ず施用して下さい。

(＜注意＞追肥を1回目の時期の1回のみで終わらせないこと)

品 種 名	肥料名		時期(出穂前日数)	施用量	備 考
ハナエチゼン	BB 秋ゆたか	1回目	6月26日頃(23日前)	15～20kg/10a	1回目の穂肥施用の基準は 幼穂長 1mm、葉色板 4.0
		2回目	7月9日頃(10日前)	20kg/10a	
	BBLP 秋ゆたか	1回のみ	6月24日頃(25日前)	35～40kg/10a	＜注意＞ ・葉色が濃い場合(葉色板4.0以上)は施用量を3割程度減じて施用して下さい。 ・地力がなく秋落ちしやすいほ場は、BBLP 秋ゆたかを施用して下さい。
ゆめみづほ	BB 秋ゆたか	1回目	6月28日頃(23日前)	15kg/10a	
		2回目	7月11日頃(10日前)	20kg/10a	
	BBLP 秋ゆたか	1回のみ	6月26日頃(25日前)	30～35kg/10a	

#### ＜目指そう！「ゆめみづほ」収量向上(基肥一発肥料での追加穂肥の施用)＞

- ・基肥一発肥料では、基本的には追肥の必要はありませんが、①収量の向上、②近年の登熟期の高温による栄養凋落を防止するため、以下を目安に上乗せ追肥に取り組みましょう。

品 種 名	肥料名	時期(出穂前日数)	施用量	備 考
ゆめみづほ	BB 追肥 550 号	7月11日頃(10日前)	7～10kg/10a	＜注意＞葉色が濃い場合(葉色板 5.0 以上)は施用しないで下さい。

#### 3 中干し終了後の水管理【ポイント② 出穂まで1か月間の飽水管理】

- ・登熟期間の水稻の活力を維持するためには根を健全に保つことが重要です。
  - ・根の活力維持には、適期の中干しに加え、中干し以降の水管理が大きく影響します。
- きめ細やかな水管理により登熟を向上させ、未熟粒の発生を防ぎましょう。

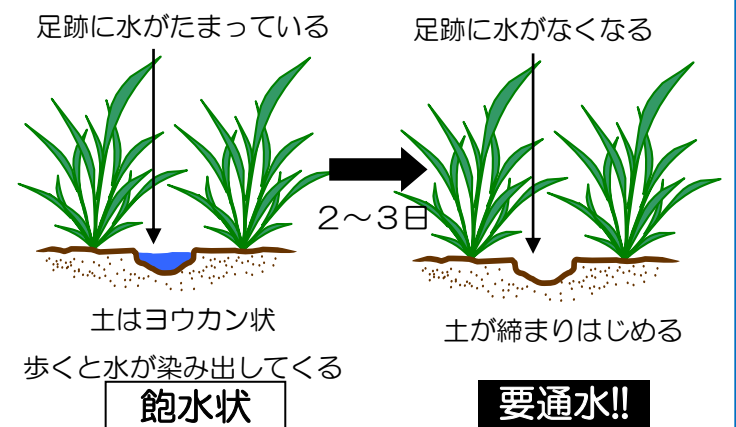
##### 飽水管理の徹底

幼穂形成期(ゆめみづほ6月30日、コシヒカリ7月10日)以降は、新しい根の発生が少なくなるため、中干し終了後は2～3日間隔を目安に通水し、飽水状態(右図)を保ち、根の活力維持を図りましょう。

- 1 通水は出来るだけ朝方か夕方に行いましょう(水田内の温度を上げない)。
- 2 向こう1か月の予報によると北陸地方の降水量は平年並とされていますが、集落や地域ぐるみで、計画的な水利用に努めましょう。

【飽水管理】とは・・・

ほ場表面に水はないが、足を踏み入ると水が染み出てくるような水分状態を維持する水管理のことです。



次ページに続きます。

#### 4 斑点米の発生防止対策【ポイント③ 出穂後の2回防除の徹底】

・斑点米カメムシの生息密度を下げるため、7月10日頃までに地域・集落ぐるみで畦畔や農道等の一斉仕上げ除草を実施しましょう。

<一斉草刈り強化週間は7月4日(木)～7月10日(水)>

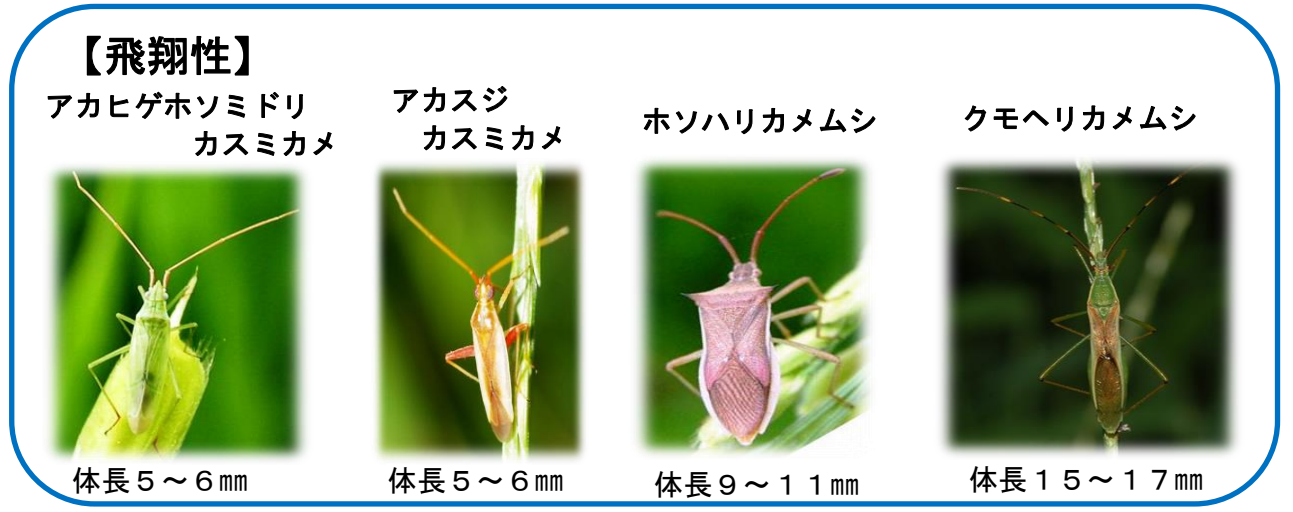
・7月中旬以降の除草は、斑点米カメムシを本田に追い込むこととなるので、基本的には行わないでください。

やむを得ず、除草する場合は、基幹防除の直前に行ってください。

・基幹防除では、出穂期の7日後(穂揃期)と、14日後(傾穂期)の2回防除が斑点米の被害防止に重要なので、必ず実施しましょう。

【出穂期】とは・・・  
ほ場全体の40～50%が出穂した時期をいいます。

<斑点米カメムシ類>



#### (1) 基幹防除

##### ①粉剤体系

粉剤防除では防除効果を高めるため、風の無い時間帯を見計らい、散布後3～4時間は降雨がない日に散布して下さい。

	病虫害名	薬剤名	散布量(10a)	散布時期	摘要
1回目	いもち病、紋枯病、カメムシ類	トレバリダビーム粉剤 DL <span>2成分</span>	3～4kg	7月17～19日頃	出穂直前防除
2回目	いもち病、カメムシ類	ラブサイドキラップ粉剤 DL <span>2成分</span>	3～4kg	7月25～28日頃	出穂7日後頃(穂揃期)
3回目	カメムシ類	キラップ粉剤 DL <span>1成分</span>	3～4kg	8月1～4日頃	出穂14日後頃(傾穂期)

○成分 は、化学合成農薬成分の数です。

##### ②粒剤体系

粒剤防除は一人で散布できることや、粉剤のような飛散(ドリフト)が少ないため、市街地等でも散布が可能なメリットがあります。

	病虫害名	薬剤名	散布量(10a)	散布時期	摘要
1回目	いもち病、紋枯病、カメムシ類	イモチエースキラップ粒剤 <span>2成分</span>	3kg	7月9～11日頃	出穂10～12日前頃 (散布後4～5日の湛水)
2回目	カメムシ類	キラップ粒剤 <span>1成分</span>	3kg	7月25～28日頃	出穂7日後頃(穂揃期) (散布後4～5日の湛水)

##### ③液剤体系

液剤防除は散布に労力はかかりますが、安価ため、コストを抑えることができます。

	病虫害名	薬剤名	散布量(10a)	散布時期	摘要
1回目	いもち病、紋枯病、カメムシ類	ビームエイトレボンゾル <span>2成分</span> + バリダシン液剤5 <span>0成分</span>	650倍・100L 1000倍・100L	7月17～19日頃	出穂直前防除
2回目	カメムシ類	キラップフロアブル <span>1成分</span>	1000～2000倍 ・60～200L	7月25～28日頃	出穂7～10日後 (穂揃期)

#### (2) 随時防除の実施

病虫害名	薬剤名	散布量(10a)	摘要
稲こうじ病 墨黒穂病	Zボルドー粉剤 DL <span>0成分</span>	3～4kg	【予防剤】常発地では出穂10～14日前に散布 (出穂10日前以降は薬害の恐れがあるので散布しない)

【農薬の適正な使用について】ラベルに記述してある使用方法以外の使い方をすると法律(農薬取締法)で罰せられます。消費者に安心して安全な能登のお米を食べていただく気持ちをもって、農薬は正しく使用して下さい。